

丸菱工業株式会社

「最幸の座り心地」で健康サポート

～自動車シート製造メーカーが手がける座布団・椅子～

PROFILE

- ◆本社所在地：小牧市大字本庄1251番地の3
- ◆設立：1964年5月1日
- ◆代表者：河村 嘉希
- ◆資本金：9,000万円
- ◆従業員：200名
- ◆事業内容：自動車用内装品製造
- ◆電話：0568-79-9211
- ◆http://www.marubishi-industry.co.jp/

丸菱工業は、1964年の創業以来、自動車用シートを主力製品とする自動車内装品メーカー。設計開発から試作、量産までを一貫して手がけており、170以上の国や地域で販売されている三菱自動車の「パジェロ」のシート（座席）を初代から100%のシェアで生産するほか、主要メーカーの各種内装品を手がけている。

様々な気候条件、地理的条件の中で使用されるRV車のシートは、健康工学に基づいた最新技術で、快適・安全・高品質が追求され、世界中で高い評価を得ている。

【取組のきっかけ】

同社は、リーマンショックを契機に、自動車業界とは異なる分野で新たな収益の柱を育てようと、一般消費者向けの製品開発に着手した。自動車用シートの開発で培った技術を活かせる新製品として、「座る」をテーマとした開発に方向性を決めた。最初の製品は、骨盤の中心部、背骨の一番下に位置する仙骨を支える事で着座時に正しい姿勢に導く「仙骨サポート座布団」（2011年に発売）。開発・デザインは同社が行ったが、仙骨サポートの理論とその実験の指導等の監修は、新製品を模索する中で訪れた家具の展示会で知り合った早稲田大学名誉教授の野呂勇氏に依頼し、販路の多くは、家具を扱う代理店への飛び込み営業で地道に開拓した。その結果、発売以来の売れ行きも好調で、2013年には廉価版の「姿勢が良くなる骨盤ざぶとん」、子供向けの良い姿勢が維持できる座布団「CAGAC（カガック）」を発売するなど、新たな商品展開を行うまでになった。



「仙骨サポート座布団」(2011年)



「姿勢が良くなる骨盤ざぶとん」(2013年)



子供向け「CAGAC」(2013年)

【さらなる新商品の開発へ】

機能性や付加価値が高い座布団を開発・販売する中で、「子供向けの次は、高齢者向け」との社内での提案をきっかけに、高齢者に向けた製品の開発を次の目標と定め、福祉業界への参入の試みが始まった。

福祉業界を知るために、まずは介護現場の声を吸い上げようと、東海3県の特別養護老人ホームやデイサービスなど、介護関連の100施設余りを訪問し、市場調査を行った。その結果、座布団を椅子の上に置くと、座面の高さが変わるため、座布団自体の使用を好まない高齢者も多いことが分かり、今まで取り組んできた座布団ではなく、新たに椅子の開発に挑戦することを決めた。

開発に当たっては、市場調査で得たニーズをもとに、肘掛けの身体へのあたり具合や姿勢の保持に必要な座面の高さや傾きなどが、利用者や使用状況によって異なることなど、介護現場での課題点を解決できるような機能を盛り込んだ。

着座部は、同社の強みである自動車用シートや姿勢矯正座布団の開発で培ったノウハウと技術を応用し、岐阜県生活技術研究所と共同開発したが、木製椅子の開発は初めての試みであったこともあり、飛騨高山の木工メーカーを探し連携して製作することに決めた。こうして完成したのが、高齢者向けの椅子「スポットチェア（仮称）」。国際福祉機器展に試作品を出展（2014年10月）したところ、多くの人から良い評価が得られたため、現在、商品化へ向け動いている。

★ 高齢者向け「スポットチェア（仮称）」

- ① 立体形状の座面で、着座時の体圧分散性に優れ、長時間座っても疲れにくい。
- ② 座面が前後3段階にスライド可能。高齢者が食事を取りやすい前かがみの姿勢や、リラックスしたい時などの生活シーンに適した座位が保持できる。
- ③ 利用者の座高やテーブルに合わせて座面高を3段階に調整できる。
- ④ 生地で肘掛けを覆うことにより、摩擦による肌負担を軽減。
- ⑤ 一般のダイニングチェアとしても使用できる。



【成功のポイント】

製品開発の成功のポイントの一つは、長年の自動車シートの開発・製造で培ってきた自社の強みを軸として、不足する経験やノウハウを専門家や支援機関、異業種の企業と連携して補い、完成度の高い製品として世に送り出していること。また、連携先や販売先を見つけるための展示会の活用や、市場調査の実施など、地道な活動を積み上げ、成果に結びつけている。

【今後の展望】

今後は、販売に向けて力を注いでいく。自社販売に加え、座布団を製品化した際に開拓した代理店や、市場調査の際に訪れた福祉施設や福祉器具の販売店等での販売を計画。関連する展示会にも積極的に出展し、広くPRを行う予定である。引き続き、座ること、座り心地にこだわった製品の開発を進めていく。